

令和5年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) あけぼの認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	・ 早朝や夕方に異年齢保育を行っていて、異年齢で関わる時間はあるが、人数の多さや部屋の大きさなどの要因で乳児が落ち着いて過ごすことが難しい。 ・ 2、3歳児が合同で遊ぶ時間をもうけているが、自分のペースで遊びたい思いが強い子もあり、子ども同士の関わりが少ない状態である。 ・ 誕生日会や行事の時に交流がある。 ・ 4、5歳児クラスで遊ぶ機会があるが、同じ年齢の子ども達や仲の良い子でかたまって遊んでいる。他クラスをみて真似したり、良いことや悪いことがあることに気付いたりして、考えながら行動できるようにしている。
目標	・ 異年齢児の真似をして物の貸し借りを楽しみながら、他児との関わり方を知る。 ・ 小さいクラスの友達と関わりながら一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・ 遊びの中で他のクラスと関わることで他児への関心を持ち、思いやりの気持ちを持つ。 ・ 遊びを通して身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり協力したりする中で一緒にする楽しさを味わい、信頼感を持つようになる。
目標達成に向けた具体的な取組内容	・ 幼児組と0歳児クラスでの関わりが出来るようにスペースを確保し、思いやりを持って接する事の大切さを知らせる。 ・ 保育者も遊びに参加し子どもの思いを代弁する。子どもの自我の育ちを見守りながら、仲立ちをし、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちに気付くことの大切さを友達との関わりの中で感じ取れるようにする。 ・ 落ちついて遊べるように環境を整え、コーナー遊びができるように工夫する。 ・ 水遊びを行うなかで、小さいクラスの子たちと少しずつ関わる。 ・ 他児の考えに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを持てるように関わる。 ・ 異年齢でルールのある遊びを取り入れ、協力したり、一緒に身体を動かしたりしながら関わりを深める。
成果	・ 異年齢で一緒に遊ぶ時間が増えた。5歳児が、泣いている0歳児に声を掛け、気持ちを汲み取り、おもちゃで気をまぎらわす姿があった。また、家や車を上の年齢の子に作ってもらおうと、遊び方を真似する姿が見られた。遊んでもらった子に自ら歩み寄る姿もあり、0歳児クラスの遊びが広がった。幼児組に優しくされた経験から自分より小さい子に対して頭を優しく撫でたり、泣いている子を見つけると、「どうしたの?」と聞く姿が見られ他児との関わりを知ることができた。 ・ どうやって遊べばいいのかブロックで作りたいものがあるが、作り方が分からない子が積極的に他クラスに聞くことが自然と出来るようになってきた。訊く・教えるという関係性が少しずつできていくようだ。小さいクラスが「ここにブロックをつけるとカッコいいで」と言ったときには、「本当だね」と受け止めてくれる姿もみられた。信頼関係が築けているように思う。 ・ 4、5歳児で、防災公園にいった。5歳児の姿を見て、負けないように4歳児が頑張って歩く姿が見られた。 ・ 年長児が遊び（じゃんけん列車）をやりこんでから年中児に提案して、一緒に遊べるようになってきた。教える事の難しさを感じたり、中心になる嬉しさを感じたりしながらゲームをする姿があり、手をつないで場所まで連れて行ってくれる子もいた。思いやりの気持ちや一緒に遊ぶ楽しさを感じる事ができている。
評価	乳児クラスでは、環境を見直すことによって子どもたちの動きがよくなってきている。その中で、ねらいとしている異年齢交流に積極的に取り組み、よくその成果があらわれている。5歳児が乳児や4歳児などに関わることで、次第に自覚が生まれ、他者に対して優しくしようとする気持ちが育ってきている。4歳児は年長に憧れの気持ちをもち、信頼関係を結べるようになっていく。また、2、3歳児の間の交流でも、2歳児が3歳児にアドバイスを求めるなどして、有機的なつながりができあがっているのがわかる。子どもたちの関わりを見ると、一人一人の子どもを大切にしようとする保育者の気持ちが保育に込められていることが感じられる。それぞれの個性を活かしながら、思いやりの気持ちをもった子どもに育てられていることが伝わってくる。今後も異年齢での交流を深めながら、子どもに寄り添った保育を展開していただきたい。